かずさ

日本ボーイスカウト
上総地区

36号

発行日
2019. 11. 1

発行：関口 陽市（地区委員長）　編集：運動拡充委員会（委員長　田中 秀近）

第 24 回世界スカウトジャンボリーに参加して

◇◇◇◇◇◇◇◇◇アメリカ　ウエストバージニア州サミット・ベクテル保護区にて開催◇◇◇◇◇◇◇◇◇

テーマ「新世界の扉を開こう」**“UNLOCK A NEW WORLD”**　7月22日～8月2日
日本からの派遣団に上総地区からは、スカウト７人・指導者２人の合計９人が参加しました。

今回、日本派遣団派遣隊第６隊隊長として参加した。前回は副長としての参加であったが、今の自身に出来る事は何か？世界の中のボーイスカウトの一員である事や、自身が体験した様々な事柄を後世に伝える責任もあり、今回臨んだ。

我が６隊は、千葉県 26 人　神奈川県５人　沖縄県４人の混成隊としての参加で、スカウト達は、県を超えての長期キャンプ、初めての海外渡航などもあり、結成当初は初めて会うスカウトも多く不安もあったが、訓練を重ねて行くうちに徐々に自信が湧き、豊かな個性が現れてきた。

午後５時を過ぎ荒天の中での設営となり、真夏であるにも関わらず気温の低下によりスカウトの志気も下がる一方であったが、隣接している外国スカウトの支援を受けての設営は心からの感謝と言葉に出来ない感動を覚えた。

期間中、スカウト達は日本では体験出来ない程のスケールの大きいアクティビティを体験する事になる。残念ながら、体格的に体験できない物もあったが彼らは出来る範囲で出来る事を楽しんでいた。慣れない英語での会話、外国スカウトとの交流・交換、映画で見たようなビッグサイズのピザ、海外の食物・文化・ダンスなど全てが貴重な体験となった。

中でも、各国の文化を伝えるカルチャーデイでは、着物の着付け・かき氷・書道・折り紙と日本の文化を伝える場があり、自主的に活動していた姿は印象深い。

スカウト達も、多くの事を学び体験出来た事は大きな成長になり、今後の人生においての糧となった事は間違いないと感じている。この体験と感動を是非後輩に伝えてもらいたい。最後に支援頂いた多くの方に感謝致します。(市原第５団　石垣 千草)

日本派遣隊第５隊副長として参加。事前訓練でスカウト一人一人から、参加の目標を聞いた。「たくさんの国の人と交流し友人を作りたい。」「経験することで、今後のスカウト活動に生かしたい。」など、熱い思いを聞く中で、「目標達成に向けての支援とともに、参加スカウト達が、このジャンボリーの体験を通じて、次の世界スカウトジャンボリーではIST（国際サービスチーム）として奉仕したいと思えるような活動をしよう」と指導者間で話した。私自身、前回の世界ジャンボリーにISTとして参加し、友人となった方達とまた一緒に活動したいと思ったことが、今回の参加を希望した理由の一つだからだ。

大自然の中でのラフティングやBMX、ジップラインといったワイルドなアクティビティ。お好み焼きや流しそうめん、折り紙や書道など日本文化を紹介したカルチャーデイ。外国隊と夕飯を囲みダンスを楽しんだ隊交歓。振り付けを考え練習を重ね、舞台で発表し拍手喝采を浴びた南中ソーランや千本桜、カラテカのパフォーマンス、ボタン一つで情報交換できる通信機器ノバスを使ったワイドゲーム、チーフやバッジなどを交換するスワッピング、世界中のスカウトとの一体感を得た大集会などなど12日間があっという間に過ぎ、スカウトたちが日毎に積極的に行動していく姿を頼もしく感じた。帰国時、多くのスカウトが「次回はISTで参加したい」といった言葉をうれしく思う。　（市原第６団　森 真紀）

【スカウトの感想】

今回参加した第24回世界スカウトジャンボリーでは、初めての体験が沢山あった。最初に体験したことは、海外に行くことだった。飛行機に乗ったことは、今までに何回かあるが、海外は初めてだった。この事は僕にとって、とても大きな事になった。次に体験したことは、海外の人との交流だ。日本では英語で会話する場面はとても少ないが、会場内では英語しか伝わらないから、とてもコミュニケーションをとるのが難しかった。その次に体験したことは、ジャンボリー内の各プログラムだ。特に印象に残っているのは、ダウンヒルのプログラムだ。最初はとても怖かったが、乗り慣れて来るとスリルが面白くなって来た。他にも体験したことは沢山あるが、これらが主に印象に残っている。

このような体験をすることは、この先無いかもしれないから、とても自分の為になった。次はISTやリーダー側として世界ジャンボリーに参加したいと思う。

（茂原第２団　入口 海音）

今回のジャンボリーでは最年少として参加したと思われるが、最年少だからといっても特に何の不自由なく楽しめたと思っている。

だが、最初の目標であった「他人の足を引っ張らない」という事には、失敗したと思っている。まず、寝坊をするという失態をしてしまった上に、人に「邪魔」等の言葉を言われた回数は数えるのが難しいほどあるだろう。しかし、最初に書いた様に

イタリア隊との交流

カルチャーデイ

自分自身は楽しむ事が出来たし、ベルギーやイギリスなど他国のスカウトとバックパックやＴシャツ等の交換をする事も出来た。だが、交換した物は大きかったが、些か交換した回数が少なすぎたとは思っている。

食当の係ではあったが、自分の大雑把な性格が悪く出て、「多分」等の言葉を多用してしまった。これにより、班員に迷惑をかけることになってしまった。しかし、食当だったおかげで優秀スカウト賞を取る事が出来た。今回のジャンボリーは自分にとって、とても有意義な物になったと思っている。

（茂原第２団　中田 逸聖）

私は今まで第20回記念千葉県キャンポリーと第17回日本スカウトジャンボリーに参加しました。ですが今回の第24回世界スカウトジャンボリーはとても規模が大きく、初めての海外という事もあって不安と期待でドキドキしていました。世界スカウトジャンボリーでは色々な国の人と交流をし、日本では体験できない事をたくさん体験したと思います。私はあまり英語が出来ないのですが、アニメ好きの外国人とはあまり話せなくても通じ合っている気がしました。日本人より外人の方がノリが凄かったり、開会式が終わった後の人混みでは、少し怖く感じたりしました。

初めてやる色々なプログラムで１番印象に残っているのはジップラインで、あんなに長く滑った事は無いのでとても楽しかったです。スキューバーダイビングでは、せっかく水着にも着替えてプールに入る直前に大雨が来てそのまま中止になりとても残念でしたが、それも１つの思い出として忘れないと思います。

この長いようで短く感じた世界スカウトジャンボリーでとても貴重な体験や経験ができ、今後にとても役立つと思います。私は世界スカウトジャンボリーに参加できて凄くよかったです。

（茂原第２団　渡邉 そら）

僕は、今年アメリカへ行ってきました。ワシントンDCや国立航空宇宙博物館などに行ってきたけど、一番楽しかったのは、キャンプ中にやった水プログラムです。

水プログラムでは、サップ、カヤッキング、リバーラフティングなどをしました。

一番楽しかったのは、サップです。サップとは、スタンドアップパドルボードの略でサーフィンボードのようなボードに乗り、パドルでこぐというものです。はじめは、バディの班長が、「サップやろうぜ」と言い出し、あまり濡れたくなかったけど、やってみたら意外と楽しくて、すぐに水着も乾き涼しくなれたので、２回も行きました。２回目は、他の人も誘い３人で行きました。その人はまだ初めてだったので、落ちるのを嫌がっていたけど、「１回落ちたほうが楽しくなるから」と言って、班長と一緒に落とそうとしたりしていました。ちなみに、パドルは１本なので、まっすぐ進めないところが、難しかったです。

ラジオ体操第一

リバーラフティングでは、隊長やもうやった外国人の人に、「とても危ないよ。」とか「真面目に死人が出るようなやつだから、覚悟したほうがいいよ。」などと言われたから、ボートがひっくり返るようなのを想像していたが、連日晴れ続きで、水量が減っていて、そんなことにはならなかったけど、良い思い出になりました。　　（茂原第２団　平島 一輝）

私にとって今回のジャンボリーは初めての経験ばかりでした。

海外に行くこと自体は初めてではありませんでしたが、ほとんど初対面の人と二週間も一緒に過ごしたり、世界中の同年代の子達と触れ合ったりするのは初めてで、とてもワクワクしました。これらの経験は、世界ジャンボリーならではの貴重な経験になったと思います。

少し人見知りな私にとって、会ったばかりの人と仲良くするなんてできるのかなと出発前は少し心配していました。でもジャンボリーが始まってすぐに周りのみんながフレンドリーに接してくれたおかげでみんなと仲良くなることができました。そしてそのことが自信につながり、他の隊のスカウトに自分から話しかけたりすることもできるようになりました。

今回のジャンボリーは言語を学んだり世界の広さを感じたりすることもできましたが、1番参加してよかったと思うことは新しい友達ができたことです。

次回の韓国で開催される25ＷＳＪにも、ISTとして参加したいと思います。　　（茂原第２団　須藤 ロゼ）

私は4年に一度開催されている世界スカウトジャンボリー（以下24ＷＳＪ）に参加してきました。今回の開催地はアメリカのウエストバージニア州で、7月22日から8月2日までの11日間でした。出発する前に何度か事前訓練を行い、同じ5隊のスカウトとの親睦を深めることが出来ました。

無事にアメリカに到着し、ブラジルとエクアドルの隊の隣にキャンプをはることになりました。会場内ですれ違う人は日本人ではなく様々な国のスカウト達でした。飛び交う言語も様々な言語で、改めて24ＷＳＪに参加しているのだと実感しました。

私が一番印象に残っているのは、カルチャーデイというイベントです。カルチャーデイでは自国の食べ物や文化などを紹介するイベントです。5隊ではお好み焼を振る舞い、書道を披露しました。
各国のスカウトにたくさん参加してもらいとても盛り上がりました。

またそれ以外には様々なアクティビティーの体験や、他国の食文化紹介のブースなど開催されていました。どの国の食事もとても新鮮でこのキャンプに参加していなければ食べることが出来ない物ばかりでした。その中でポルトガル料理がとても気に入りたくさん食べました。

このキャンプは私の生きてきた中で最も充実した11日間でした。この24ＷＳＪはリーダーや、ISTのみなさん、所属している上総地区、保護者皆さんのお陰で成り立った物だと思います。この感謝の気持ちを今度は私が次の世界ジャンボリーに参加するスカウトの為に繋げていきたいと思っています。他文化に触れることにより、文化の差を超え一人一人の人々を理解していこうという思いが芽生えました。今後はこの貴重な体験を自分のスカウト活動に活かしていきたいと思っています。

（市原第６団　山川 莉央）

私は7月21日から8月5日にアメリカ合衆国ウエストバージニア州サミットベクテル保護区で行われた第24回世界スカウトジャンボリーに参加してきました。

最初は初めての海外ということもあり不安もありましたが、とても楽しい16日間を過ごす事ができました。なかでも特に思い出に残っているのはカルチャーデイです。私の隊は、折り紙、習字、お好み焼き、白玉、流しそうめんを準備し、外国の方々に振る舞いました。私は折り紙のレクチャーを担当しました。言葉が上手く伝わらず説明するのが大変でしたが、たくさんの外国スカウトと交流することができて、嬉しかったです。

自分の当番時間が終わると、同じ班の女子スカウトと一緒に台湾のタピオカミルクティーを求めて各サイトを散策しました。やっぱり本場のタピオカはおいしかったです。(笑)
私はこのジャンボリーでたくさんの外国スカウトと交流し、たくさんのことを学ぶことができました。ジャンボリーで学んだことを生かし、これからのボーイスカウト活動に貢献できるよう、精一杯頑張っていきたいと思います。

（市原第６団　髙橋 彩佳）

上総地区発足 45 周年記念Ｂ－Ｐ祭　《2月 17 日》

1	（ブ）ラウンシー島	B-P にちなんだゲーム	大網白里1･東金1
2	（ラ）ララ世界の友	ソング　スマートネス	茂原２
3	（ウ）デダメシ	スカウト技能	市原６
4	ア（ン）ノウンスカウト	世界に広がるスカウト運動	市原１・ＲＳ
5	（シ）ッカリセヨ（ー）	救急法　災害救助	市原７
6	（ト）ン汁（ウ）マイ	食事　トン汁	市原３・市原５

ようこそブラウンシー島へ！

ボーイスカウトの始まりは、子どもたち 20 人を集めて、ブラウンシー島で実験キャンプでした。この実験キャンプでの活動内容をゲームにしました。まず、ベンチャースカウトが虫食いの巻き物で、ゲームの案内をします。

ゲーム①ブラウンシー島が出てくるパズルゲーム。スカウトは頭を寄せ合い、真剣に挑戦。色が付いていなかったので、難しかったかな？
「フーン」という感じだったかも・・・
ゲーム② 20 人は４つの班に分かれました。班の名前をあらわす獣の「ワッペン」と肩につけるリボンの色を組み合わせは？

ゲーム③島での生活にはロープの結びは欠かせません。本結び、ひとえつぎ、巻き結びをやってくるように、

キャンプの前に宿題が出されました。これをゲームにしてロープ結びリレーで時間を競いました。ビーバースカウト、カブスカウト、ボーイスカウトにはそれぞれのレベルに応じたロープ結びをしました。ビーバーはどんな結び方をしたの？ビーバーは「ビーバー結び」そんなのはありません。どんな結び方でも良いことにしました。
ゲーム④キャンプの最終日には鳥班と獣班に分かれて綱引きをしました。ゲームでの綱引きは、片手・片足による対抗戦にしました。勝っても負けても恨みっこ無し。

ゲーム⑤このブースの最後は、６冊発行された『スカウティング　フォア　ボーイズ』を発行順に並び変え、終了 !!（大網白里第１団・東金第１団）

「ラララ世界の友！！」

寒空の B-P 祭。茂原第２団のブースは「ラララ世界の友」
寒さに負けず、大きな声で歌いましょう！
バラバラになった歌詞を集めて１曲にし、みんなでそろって歌います。曲は 10 曲。みんながよく知っている歌やスカウトソングです。
「大きな歌」「みんなで大きなわを作ろう」「花はかおるよ」「さんぽ」「ジャングル探検隊」「窓をひらいて」「森のくまさん」「キャンプだホイ」「サラスポンダ」「われらの総長」です。

あ！わかった！と次の歌詞を探すスカウト、同じ曲を別の人が探して歌詞カードが足りなくなってしまうグループ、ワイワイガヤガヤ、ちらちら雪も舞う中、大きな歌声が響きます。
ゲームは全部の曲を歌い終える速さを競いましたが、特に大きな声で歌った班にはボーナスポイントをつけることにしていました。そうしたらどの班にもボーナスポイントがつきましたよ。隊集会でも大きな歌声が響きますように！！（茂原第２団）

「ウデダメシ」計測ゲーム

２月17日、時折雪が舞う寒空の下で上総地区発足45周年記念B-P祭が開催された。今年は「スカウティング１１１（トリプルワン）ブラウンシー島から・・・」というテーマで、地区内各団で考案したゲームをスカウト達が挑戦して回るという企画だ。

私たち市原第６団は「ウデダメシ」というゲームタイトルで計測ゲームを行った。これまで培ってきたスカウト技能を用い、ビーバースカウトとカブスカウトは距離を、ボーイスカウトには団旗のポールの高さを割り出してもらうこととした。

ビーバースカウトとカブスカウト達は歩測で計測、ボーイスカウト達は簡易計測器具を使用したり割当て法などを用いるなど、各班毎に得意な方法で計測を実施していました。

今後もスカウト達が培ってきた技を発揮できる場をなるべく多く作っていければ良いと思います。

（市原第６団）

【計測ゲームのスコア】

		ビーバー	カブ	ボーイ	誤差計	順位
	答え	3.0m	7.0m	5.05m		
１班	回答	3.0m	6.7m	5.5m	0.75m	1
	誤差	0m	0.3m	0.45m		
２班	回答	3.0m	9.5m	4.5m	3.05m	9
	誤差	0m	2.5m	0.55m		
３班	回答	2.3m	6.3m	6.3m	2.65m	7
	誤差	0.7m	0.7m	1.25m		
４班	回答	3.0m	6.0m	4.3m	1.75m	6
	誤差	0m	1m	0.75m		
５班	回答	3.0m	7.7m	5.5m	1.15m	2
	誤差	0m	0.7m	0.45m		
６班	回答	3.0m	5.6m	4.8m	1.65m	4
	誤差	0m	1.4m	0.25m		
７班	回答	3.0m	8.0m	3.2m	2.90m	8
	誤差	0m	1.0m	1.9m		
８班	回答	2.9m	8.4m	4.9m	1.66m	5
	誤差	0.1m	1.4m	0.15m		
９班	回答	2.8m	6.5m	4.4m	1.40m	3
	誤差	0.2m	0.5m	0.7m		

「世界に広げようスカウトの輪」

上総地区発足45周年記念B-P祭で第１団が担当したブースは、イギリスからはじまった「ボーイスカウト運動」が世界に広がっていく様子をイメージしました。

ゲームエリアを４つに区切りイギリスのエリアからフランス、カナダ、アメリカと渡りゴールをきそいます。移動手段は出題されるボーイスカウト関係の問題を班の全員で考え回答権を得た班が正解すると、輪にしたロープを班の中で決めたアン・ノン・スカウトが投げ、その輪のなかに班員全員が移動して行くというものでした。問題は３択。地区ローバースカウトが頭をひねる良い問題を作ってきてくれました。

４つのエリアに分かれたフィールドなので最初に回答に正解し、輪を投げる権利を得た班はフィールドの中心寄りに移動して行けば最短移動回数でゴールを目指せるのですが、気づいた班はなかったようです。それだけに回答数が拮抗し、用意した問題が足りなくなるほど、各班デッドヒートしました。

輪を細長く投げ、移動距離を伸ばそうと工夫する班もあり、スカウトたちは皆で考え、実行し、修正していく様子が自然とチームワークになり、とてもよかったと思います。

ゲームの進行、時間制限など未完成な部分もあり、実施して臨機応変に組み立てなければならないところもありましたが、担当したリーダー、ローバースカウトの皆がよく対応してくれました。お疲れさまでした。

（市原第１団　倉知 篤彦）

「そなえよつねに」を実感

市原７団では「シッカリセヨ－急病者を助け出せ－」というタイトルのもと、ブースを訪れた班長に、謎の病に倒れた村民を助けてほしいという手紙が渡されました。手紙に書かれた村の言い伝えに従い、ビーバースカウトは決められた薬草カードを探す／カブスカウトはロープを決められた結び方で結び十字形の形に成形する／ボーイスカウトは竹と毛布を利用して急造担架を作り十字形の中へ病人を運ぶという各部門の技術や能力を使いながら、班全体で協力して急病者を助けるというゲームの開始です。時折みぞれの降る中でしたが各班ともビーバースカウトは活発に、カブスカウトとボーイスカウトは各々に出された課題に首をひねりながらも、自分達が今まで学んできた技能を絞り出し、班によっては時間がかかりながらも、全ての班が村民を助け出すことができました。

各班ともビーバースカウトに得点

差はありませんでしたが、カブスカウト・ボーイスカウトにはスカウト技能を求める内容だった為か結構な得点差が…。特にボーイスカウトは日頃使うことがない急造担架作りということで、早い班と遅い班でかなりの違いが出ました。いつ必要になるか分からないスカウトの様々な技能ですが「そなえよつねに」を忘れず、普段の訓練をしてもらいたいと思います。　（市原第７団　山本 清珠）

あったか～い「トン汁ウマイ」

18年ぶりに地区で行われたB-P祭。途中、雪が降っての活動でしたが、ビーバー隊からローバー隊までのスカウトが集まり、とても有意義な活動だったと思います。市原第３団は市原第５団と共に、テーマの「ブラウンシー島」の最後の文字「トウ」を「トン汁ウマイ」に絡んで豚汁作りを担当。スカウトがゲームを楽しんでいる中、リーダーも和気あいあいと豚汁作りを楽しんでいました。

市原第３団の豚汁はあごだしを使い、風味まろやか上品な味で、130～150人分を大寸胴満タンに調理しましたが、市原第５団と共に量もピッタリで最後の一人で完売しました。コロコロしたかわいい里芋も喜ばれ、お腹も満たされ、体も温まり、スカウト、リーダー共に満足した昼食でした。カブ隊の壁新聞作りでは、市原第３団の二人のスカウトがアイデアを出し合って作成し、見事優秀作品に選ばれました。年々スカウト数は

減少し、団ごとの活動が難しくなってきていますが、今回の様にまた地区で開催するなど工夫し、みんなで楽しんで活動できる地区、団にしていければと思います。

（市原第３団　花房千嘉子）

市原第５団は、市原第３団と協力して、上総地区の元気なスカウトたちのおなかをいっぱいにするため、そして体と心を暖めるために約300人前のトン汁を作りました。大きな寸胴に前日から下拵えした具材たっぷりのトン汁です。

当日は雪がちらつくほど寒い！こんな寒い日でも、ボーイスカウト隊のスカウト達は今回のB-P祭のために特別に団・隊をまたいでシャッフルして編成された隊を率いて元気いっぱいブースで活動をしていました。そんなスカウト達がお昼頃にお腹を空かせて次々とトン汁ブースへやってきました♪あったか～いトン汁はどんどんスカウトたちのお腹におさまり、中には４杯も食べるような食いしん坊スカウトも（　）。たっぷり用意したはずのトン汁は最後には足りなくなってしまうのでは！？

ヒロキ（ローバースカウト 山本開生）

と心配するほどの盛況振りでした。そしてお腹がいっぱいになって、次のブースへ向かっていくスカウト達を見送るのでした。　（市原第５団）

ローバー夏季キャンプ

地区ローバース会議では８月10日～11日に、市原第５団野営場にて、「災害時に向け生きる術を学ぼう」と題して夏季キャンプを行いました。

今回取り組んだ内容は、ブルーシートで寝床を確保すること・火起こし器を用いた火の確保・自然を利用した飲み水の確保の仕方についてです。

今回参加したメンバーでも、ボーイの頃に１回やったくらい…や、初めて体験する、というメンバーもおり、失敗体験を含み、学んだことも多かったのですが、実際の場面で実用できる程のレベルには程遠い結果となりました。

このキャンプから約１か月後、大型の台風15号が関東を直撃し、想定外の被害が千葉県各地でも確認され、私の自宅も５日間停電が続きました。本稿をお読みいただいている皆様の中にも停電・断水にご苦労なされた方がいらっしゃるかと思います。

私は仕事柄、台風直撃後、千葉県内でも特に被害の大きかった南房総市と君津市に復旧応援に行く機会がありました。電気・水道のない生活を送っている現地の方々と接してみて、どれだけライフラインが生活の中で重要なものなのか改めて気付かされました。

それに加え、被災地の台風の爪痕を目の当たりにし、我々の想定したサバイバルキャンプでは被災後の生活を乗り越えることはできないと感じ、スカウトのモットーである「そなえよつねに」の精神を再認識するよいきっかけとなりました。

（市原第５団ローバー隊　膳棚 和也）

日本ボーイスカウト千葉県連盟上総地区　http://bs-kazusa.jp/

千葉県内にはボーイスカウトの101の団があり、4,924人（令和元年７月現在）が活動しています。また、県内を11地区に分け、我が上総地区もこの11の地区の一つです。
上総地区には８個の団が所属しています。

団　　名	活　動　地　域	入団等問合せ先	電 話 番 号
市 原 第 1 団	市原市八幡宿、五井 周辺	田中　秀近	0436-21-3840
市 原 第 3 団	市原市国分寺台 周辺	牛田　智子	0436-36-7747
市 原 第 5 団	市原市牛久 周辺	山内　憲章	0436-92-0105
市 原 第 6 団	市原市辰巳台 ちはら台 周辺	齋藤　敏子	0436-75-0392
市 原 第 7 団	市原市姉崎 周辺	菊池　由紀	0436-62-4004
茂 原 第 2 団	茂原市、長生郡 周辺	青木　　勇	0475-23-9239
東 金 第 1 団	東金市、山武市、山武郡 周辺	山下　すみ江	0479-80-8551
大網白里第１団	大網白里市 周辺	奥貫　　誠	0475-72-7988